

実習日：平成 28 年度第Ⅱ期 11 月 9 日

実習先：大分市医師会立アルメイダ病院

大学名・学年：第一薬科大学 5 年

氏名：大津一馬

今回、大分ゆふみ病院での実習で始めに行ったのは、朝のカンファレンスへの参加でした。そこでは医師、薬剤師、看護師などの多職種の方が集まり、入院患者の状態や新しく入院してくる患者についての情報などを共有していました。

ホスピスでは疼痛コントロールが大事であり、麻薬を使用することが多く、その管理も薬剤師の重要な仕事となってきます。麻薬についてはその管理方法や廃棄方法について学ぶことができました。実際に麻薬の受け渡しについて譲渡証、譲受証を用いてロールプレイを行い、気をつけるべきポイントを知ることができました。

ソーシャルワーカーの方に施設内を案内してもらい、ホスピスの特徴について教えてもらいました。大分ゆふみ病院では、一度退院してもまた体調が悪くなればすぐ入院を受け入れているという話を聞き、ホスピスは一度入院したら出ないものだと考えていたため、ホスピスについての考え方が変わりました。

フェントステープの使用方法についてもロールプレイを行い、貼り方やはがれたときの対処法など患者に伝えるポイントが理解できました。

今まで、緩和ケア病棟についてのイメージとしてはただ死を待つだけの場所だと考えていましたが、今回の実習を通して、がん患者の痛みをとり苦痛がなく日常生活を送れるようにサポートしている場所だと考えるようになりました。今後さらに多くのことを学び、広い視野を持ち、多方面から考えていける薬剤師になりたいと思います。